

標準ベースのクラスルームは、学習目標に基づいています。学習目標とは、クラスで教える主要な概念とスキルです。教師はルーブリック（採点のためのガイド）を使用し、学習目標ごとに生徒の熟達度を判断します。ルーブリックには、4つのレベルの熟達度があります。

- 4 – 高度に熟達している
- 3 – 熟達している
- 2 – ほぼ熟達レベルにある
- 1 – 発達途上にある

上記の熟達度を用い、教師は授業でカバーされる各学習目標に対する生徒の全体的な熟達度を評価します。平均化された数値は以下の表に基づいて成績として表示されます。

A	3.4 - 4.0	“A” は、生徒が非常に高いレベルで授業の学習内容をマスターしたことを示します。この成績を得るためには、複数ある学習目標の大半において、熟達している (3)、または 高度に熟達している (4) が必要です。
B	2.7 - 3.4	“B” は、生徒が授業の学習内容について十分に理解し、次の段階へ進む準備が整っていることを示します。この成績を得るためには、複数ある学習目標においてほぼ全て熟達している (3) が必要です。
C	2.0 - 2.7	“C” は、生徒が授業の学習内容について基礎的な理解があることを示しています。生徒は、複数ある学習目標の大半において ほぼ熟達レベルにある (2) またはそれ以上の評価を得て、次の段階へ進む最低限必要な知識とスキルを達成しました。
D	1.6 - 2.0	“D” は、生徒が必要な学習を十分に習得していないことを示します。この評価を受けた生徒は次の段階に進むことができますが、前提条件の学習が不足しているため、介入が必要な場合があります。
F	1.6 未満	“F” は、次の段階に進むための十分な学習がなかったことを示します。この評価は、複数ある学習目標の大半において発達途上にある (1) を受けた生徒です。ハイスクールの生徒の場合は、単位が授与されません。

注釈: 複数ある学習目標の平均が評価を分ける値(1.6, 2.0, 2.7, 3.4)になった場合は、高い評価を採用します。